

長寿世界一となった香港

～ 高齢化に伴う諸問題～

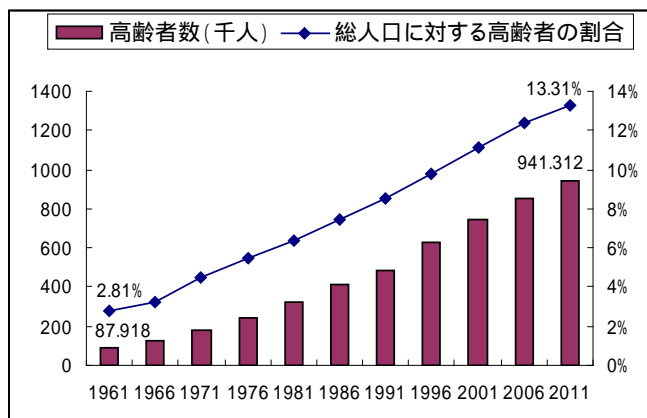
香港駐在員事務所
秘書 Hau Siu Yun, June

2012年7月に香港統計局が発表したデータによると、2011年の香港人の平均寿命は男性が80.3歳、女性が86.7歳となり、主な国・地域別では男女とも「長寿大国」日本を抜いて世界一になりました。これは、香港の発達した医療制度と健康的な生活習慣によるものと思われます。

香港では平均寿命の改善とともに高齢化が進み、2011年の総人口に占める高齢者(65歳以上)の比率は13.3%と過去最高水準を記録。近年の出生率低下やベビーブーム世代(50～60年代生れ)の高齢化に伴い、同比率は今後ますます拡大していくと予想されています。

高齢化の進行に伴い、介護等を必要とする高齢者への支援ニーズが高まっていますが、香港にはいわゆる「訪問介護」や「デイケア」等のサービスが非常に少なく、十分な介護環境が整備されていないことが問題となっています。

高齢者の人数、及び総人口に対する割合の推移



(出所:香港統計局)

香港では、高齢者のおよそ9割が自宅で暮らしており、介護が必要な場合は家族と暮らしたり、お金に余裕があればメイドさん(主にフィリピン人)を雇って炊事・洗濯・買物等をしてもらうのが一般的です。

しかし、近年は核家族化が進み、子供との同居率は縮小傾向にあります。また、認知症やその他疾病を患う高齢者のケアはメイドさんでは限界があります。訪問介護サービスも存在しますが、先述したように非常に少なく、十分に対応できていない状況です。

また、「護老院」と呼ばれる、病気等の理由で自宅での生活が困難になった高齢者が利用できる老人ホームも存在しますが、供給が追いつかず多くの施設で入居待ちが何年も続いているようです。

一方、高齢者の貧困も問題となっています。香港の公的年金制度(MPF)は2000年に開始されたばかりであり、支給対象となっていない老人が数多く存在します。

そのため、低賃金労働や子供からの仕送りのみにより生計を立てている人が多く、高齢者の3人に1人が貧困ライン¹で暮らしているのが現状です。

このような状況の中、政府は「Community Care Service Voucher」と呼ばれる介護サービス用クーポン(毎月5,000HK\$,約65千円)の配布を試験的に導入(2013年9月開始見込)。また、特別優遇高齢者手当(毎月HK\$2,200,約29千円)の支給開始や医療機関診察券の支給額増加といった政策を打ち出すなど、高齢者の生活・診療支援を強化し始めています。

香港の高齢化をビジネスチャンスと捉えている外国企業もあるようです。業界世界最大手のある米国企業

¹ 社会福祉団体の連合組織である香港社会服務聯合(HKCSS)が定めた基準。月収が香港全体の各世帯収入中央値の半分(2011年では、単身世帯で3,500HK\$/約46千円、二人世帯で7,500HK\$/約100千円)に満たない世帯が対象。

は、家事や通院・外出付き添いなどの訪問介護サービス分野において香港市場への参入を検討しており、将来的には香港を足がかりに中国本土への進出も目指しています。

香港は世界一の長寿地域となり、20年後には高齢者の比率は全体の3割程度まで増加すると言われていますが、現時点では高齢者が自立して健康に暮らしていくには理想的な環境であるとは言えないようです。

政府や企業の努力により、将来は全ての香港人が幸せな老後を過ごせるようになることを願っています。

以上